

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.64

日時	2013年11月24日
行脚先	福岡一文字造剣之地碑
住所	岡山県瀬戸内市長船町福岡（備前国）
行事名	

特徴

刀工一派「福岡一文字派」の石碑が建てられています。
福岡一文字派は、鎌倉時代初期の則宗を始祖とし、鎌倉中期にかけて多くの名工を輩出して黄金時代を迎えました。中でも則宗や宗吉らは後鳥羽上皇の御番鍛冶として召し出されています。
一文字の呼称の由来は、銘に「一」の字を刻す者が多いからで、「一」は天下一ということを表わしているそうです。
刀工たちの居住地の福岡庄（現在の長船町福岡地区と岡山市の東部の旧上道地区）は、平安時代の末期から鎌倉時代の正中元年(1324年)に東寺の荘園となるまでは、皇室の重要な荘園でした。
「東寺百合文書」に残されている古文書によると、当時福岡一文字派の刀工たちは、福岡庄の吉井周辺に居住し、皇室の庇護を受け、広い給田を所有し、安定した生活の中で鍛刀していたそうです。
古雅の上に優美さを加え、一世を風靡した福岡一文字派の作風は、のちの日本刀の原形であり、他の地へも伝わり大きな影響を与えました。
則宗・吉家・吉房・助真・助平・助綱等を始め、「一」、無銘のものまで、多くの刀剣が御物・国宝・重要美術刀剣・重要刀剣となっています。

黒田官兵衛との関わり

天正18年(1590年)、豊臣秀吉による小田原征伐の際、直接小田原城へ赴いて和睦交渉の仲立ちを果たした黒田官兵衛に、北条家当主の北条氏直より家宝「日光一文字」が返礼として贈られました。
それ以後、この太刀は黒田家の家宝となり、現在では国宝に指定されています。
この国宝 太刀名物「日光一文字」は福岡一文字派の傑作とされています。

記録

